

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	武雄市立 橋小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校評価アンケートでは、「学力向上について」「心の教育」について、児童や保護者の肯定的な回答を得ることができ、学校の方針をよく理解していただいた結果であると考え。教職員のICTの活用により、授業改善や業務効率化につながっている。 ・志を高める教育として掲げている「ときわっ子体験活動」については、90%以上の児童が、学習した内容が自分のためになったと回答している。今年度は、コロナ禍でできなかった活動を一部実施することができ、学校・家庭・地域が連携して、ともに活動を体験することができた。この体験活動が、郷土についての真の学びとなり、学校・家庭・地域の思いを受け継ぐものになるよう、次年度も計画、実施していきたい。

2 学校教育目標	生きる力を身に付け、学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ ときわっ子の育成
----------	-------------------------------------

3 本年度の重点目標	ア、確かな学力を育む教育活動の推進 イ、豊かな心を育む教育活動の推進 ウ、健やかな体を育む教育活動の推進 エ、特別支援教育活動の推進 オ、幼・保・小・中連携の推進 カ、時代のニーズに対応した教育の推進 キ、家庭・地域との連携強化 ク、働き方改革の推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

重点取組	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○確かな学力を育む教育活動の推進	○「自分の考えを相手にわかるよう説明することができていますか」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合80%以上。 ○市販テストにおける5、6年生「思考・判断・表現」の平均得点が国語80点以上、算数70点以上。	・「授業づくりのステップ1・2・3」チェックシートを活用し、定期的に授業実践を振り返り、ステップ2以上を目指す。 ・家庭学習時間の目標を設定し、記録を見える化し、振り返ることができるようにする。	A	・「自分の考えを相手にわかるよう説明することができていますか」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合74%であった。 ・夏休み前に家庭学習の時間を調査し、結果も共有した。定期的な振り返り時間を、2学期も設定する。	A	・年末に家庭学習について調査を行い、学校外での学習について指導することができた。 ・「工夫して自主学習できているか」の質問に対して、前向きな回答が98%と、昨年度とあまり変化がなかった。宿題の出し方や自主学習の取り組み方などについて、全校で統一して取り組むことが必要だった。	A	・家庭学習で分からないところの学習の見直しを取り組みに入れ、学力アップにつなげてほしい。 ・自主学習の内容をもう少し改善したほうがよい。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●豊かな心についてのアンケートにおいて肯定的な回答をした児童が85%以上(児童アンケートにて)	・道徳の授業づくりに関する校内研修の実施 ・人権週間、人権集会に全職員で取り組む。	A	・児童アンケートでは、友達との関係について肯定的な回答をした児童が90%以上で達成している。 ・人権週間、人権集会で実施に応じた取り組み内容を提案し、全職員で実施する予定。	A	・児童アンケートでは、友達との関係について肯定的な回答をした児童が90%以上で達成している。 ・人権週間や人権集会で児童の実態を考えた話したり、人権に関わる本を設置したりして思いやりの気持ちが高まるよう努めた。	A	・友達関係は将来社会に出た時にも必要なので、差別のない人権に力を入れていきたい。 ・相手を思いやる人になってほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止について、教師の組織的対応ができた回答する職員が、80%以上(教職員アンケート)	・毎月の生活アンケートや学期1回のQUアンケートを実施し、児童の状況把握に努める。 ・毎月の児童支援連絡会で気になる事案等について共通理解を図る。	A	・毎月生活アンケートを実施し、それをもとに関わりや様子の観察などを児童の状況の把握に努めている。 ・児童支援連絡会で、気になる児童や事案について共通理解を図り、いじめの早期発見や早期対応に努めている。	A	・児童個々に対応した指導・支援を、全職員共通理解のもとに行っている。肯定的な回答をした教員が80%以上で達成している。 ・毎月生活アンケートを実施し、それをもとに関わりや取り組み、児童支援連絡会で、全職員で共通理解を図り、いじめの早期発見や早期対応に努めた。	A	・全職員がちゃんと子供一人一人に向き合っている。先生方の行き届いている。 ・いじめ問題は件数の多少にかかわらず、1件でもあれば、家庭、学校、地域の関係者がそれぞれの立場から発見、解決に取り組む必要がある。
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれてる」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・体験活動では、学年に応じた児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みの実践を行う。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれてる」と回答した児童は93%で達成できている。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は87%であった。 ・体験活動では、児童が活動の目標をたたり、振り返りを行ったりして充実した活動になるような取り組みを続けている。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれてる」と回答した児童は94%で中間評価と同じく達成できている。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童は82%で、数値目標は達成しているものの中間評価と比べるとやや下回った。 ・体験活動では、活動の目標をたたり、振り返りを行ったりして充実した活動になるような取り組みを続けているが、児童の夢や目標につなげる指導や支援が課題である。	A	・一人一人をよく見ていただいているように思える。 ・自分の意思表示をして、心の強い気持ちを持つ子育ててほしい。 ・先生は児童の良いところを認めてくれている。児童は将来の夢や目標をもっていると思う。
	◎体験活動を中心とした郷土について学ぶ体験活動の充実	●体験活動についてのアンケートで、郷土についての学びを得たと考える児童が90%以上。	・生活科、総合的な学習の時間における体験活動についてのアンケートを実施し、児童の反応を考察する。 ・学期末に、教職員へのアンケートを実施する。	A	・体験活動についてのアンケートでは「体験活動は自分のためになった」と肯定的な回答をした児童が93%であった。 ・多くの学年で地域人材を活用し、郷土について学ぶ体験活動や授業を行うことができた。後期も引き続き活用し、児童の郷土についての学びを深めていく。	A	・体験活動についてのアンケートでは「体験活動は自分のためになった」と肯定的な回答をした児童が97%と、中間評価よりも肯定的な回答が多かった。 ・教職員アンケートの最終評価では、「郷土について学ぶ体験的な活動を計画し、実施している。」と回答した教員は100%であり、児童が郷土について学びを深める体験の機会を十分に取ることができた。	A	・歴史ある橋の町。もって地域の活動に参加して郷土への思いを継いでほしい。 ・「地域とともに」が実践されている。 ・地域の人の対話を通じ、自己の考え方を広げ深める学びが実現できた。
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしてる」児童生徒80%以上 ・「好き嫌いをせず食べている」と回答した児童が80%以上。(児童アンケート)	・児童に食育標語を書かせ食に関する興味・関心をもたせると、食事の重要性や感謝の気持ちを育む。 ・給食委員会の活動として、給食の月目標や季節や行事に関わる食材や栄養についての情報を発信していく。	A	・「健康に良い食事をしてる」と回答した児童は61%、「だいたいしている」31%であり、92%が健康によいと考えている。 ・朝食を食べる児童は95%、「好き嫌いをせず」に食べている児童は86%であり、食事の重要性を感じている児童が多い。 ・給食クイズや給食クイズを行ったことで、食材や食に関心をもつことができた。	A	・「健康に良い食事をしてる」と回答した児童は68%、「だいたいしている」28%であり、96%が健康によいと肯定的な回答が多くなった。 ・朝食を食べる児童は98%、「好き嫌いをせず」に食べている児童は89%であり、食事の重要性を中間評価よりも感じている児童が多い。 ・給食クイズや給食クイズを行ったことで、食材や食に関心をもつたり、つづけてくださる方々に感謝の気持ちを抱くきっかけとすることができた。	A	・朝ごはんは体にとって一日の始まりを知らせる目覚まし時計のような役割がある。学校からも強く必要性を推進してください。 ・子どもたちに、食育について、食と農の講演をしたい。 ・食育の大切さを育ててもらっている。
○体育的行事や健康委員会による活動の充実	●体力テストで4種目以上全国平均に達することができる。	・健康委員会によるスポーツチャレンジの実施や外遊びの奨励。 ・体育的行事に合わせ、強化週間や旬間を設定し、児童が運動に意欲的に取り組めるようにする。	B	・相撲大会に向けて、地域の指導者を招いて練習を行う日を設け、児童が意欲的に取り組むことができたよう指導をしていただいた。 ・後期は持久走大会に向けてマラソン旬間を設けたり、健康委員会と連携して全校でスポーツチャレンジを行う。	A	・約2週間のマラソン旬間を設けて、体力を向上させたり、健康委員会と連携して、スポーツチャレンジの「輪くぐり」を行い、友達と協力して運動することの楽しさを味わわせたりすることができた。 ・5年生の体力テストにおいて、男子は5種目、女子は7種目、全国平均に達することができた。	A	・橋の子達は日ごろからよく体を動かしているようで嬉しく思う。 ・体力テストの成績がよいので、健康委員会の取り組みを教えてください。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・タイムカードによる月の時間外在校等時間が45時間を超える職員割合30% ・定時退勤日の設定	C	・タイムカードによる月の時間外在校等時間が45時間を超える職員割合が、4～9月まで平均36%であった。・定時退勤日の実践ができていない。	B	・時間外が45時間を超える職員の割合は、10月～1月にかけて26%まで少ななり意識の変化が見られた。 ・週1回の定時退勤の実践は以前よりできてい	B	・仕事量が少なくなってきたのではなく、自宅での仕事量が増えていなければよいが、定時退勤はなかなか難しいと思う。 ・先生方があまりにも忙しい。
○学校行事や会議等の精選・効率化の推進	○職員会議のペーパーレス化による効率化を図り、20%の時間短縮を実践する。	・会議、行事等の内容について、教育効果を吟味し、教育活動の精選を行う。	・職員連絡会や会議では、ほぼペーパーレス化を実践することができ、準備時間の短縮につながった。 ・行事精選についての検討が必要。	B	・職員連絡会や会議では、ほぼペーパーレス化を実践することができ、準備時間の短縮につながった。 ・行事精選についての検討が必要。	A	・職員の82%が「会議や業務の効率化を図るための工夫をしている」と回答しており、ペーパーレス化の実践により準備等の時間を省き、ほぼ全ての会議で時間短縮できた。	A	・ペーパーレス化は時代に合った方法で時間短縮につながっているのであればいいと思う。
●特別支援教育の充実	○配慮を要する児童の理解と支援体制の強化	○特別支援に関する専門性が向上したと認識した教職員が80%以上	・交流学級と連携を図り、教師の専門性を高めるための特別支援に関する研修会の実施。 ・ケース会議の実施、情報交換	A	・8月に講師(本校sco)を招いて研修会を開催し事例をもとに話し合い研修を深めた。 ・日々、職員間で児童理解を深めるための情報交換をけている。 ・特別支援に関する専門性が向上したと認識した教職員は100%だった。	A	・日々、職員間で児童理解を深めるための情報交換を心がけ、事例によってはケース会議を開き検討することができた。 ・特別支援に関する専門性が向上したと認識した教職員は100%だった。	A	・特別支援教育については、安心して子供を学校に送り出している。 ・研修等で先生たちが学ばれている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
○防災教育の推進	○防災教室および大雨対応避難訓練の実施	○防災講座・集団下校後のアンケートで、「防災意識が高まった」と回答する児童80%以上。	・地域消防団を講師とする防災講座を全校児童を対象に行う。 ・定期的ほか、警報発令時に集団下校引率を行う。	A	・地域消防団を講師とする講座、水害時の危険箇所を確認しながらの集団下校を実施できた。 ・防災講座や水難避難訓練を通して、防災について考え、気をつけることを学ぶことができた肯定的な回答をした児童が96%であった。 ・今後、地震や火災時を想定した避難訓練を実施予定。	A	・防災講座や水難避難訓練を通して、防災について考え、気をつけることを学ぶことができた肯定的な回答をした児童が最終96%であった。 ・交通安全を守る、下校時刻を守る、防犯ブザー携帯など安全に気をつけている児童が99%であった。 ・地震・火災避難訓練を実施することで、児童の防災意識を高めることができた。	A	・水害の多い町なので、防災講座等、消防団の方と訓練をしている。 ・地域の人の考え方や体験を通じて防災意識を高めることができた。
○時代のニーズに対応した教育の推進	○教育におけるDX化の充実	○タブレットを活用した授業が「分かりやすい」と回答する児童80%以上。	・教科等の学習での積極的な活用を行い、教師のスキル向上研修を、年間1回以上行う。 ・情報モラル教室を3～6年生を対象に行う。	A	・夏休みの期間に、ICTに関する職員研修を行った。実践紹介もあり、学級の実態に合わせてICTを取り入れている場面が増えてきている。	A	・タブレットを使った学習が「わかる」「だいたいわかる」と答えた児童が99%だった。 ・児童にタブレットを使わせる際のルールについて、学級ごとに違いが出ることもあった。 ・全校朝会で指導したり、破損を防ぐ注意喚起をしたりと、より定期的な指導が必要だった。	A	・学年が上がるごとにタブレットのタイピングスピードが速い。目を見張るものがあり素晴らしい。 ・これからの学習にはタブレット活用は必要なので、指導を続けていってほしい。

5 総合評価・次年度への展望	●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・「学力向上について」「心の教育」について、児童や保護者、地域の方々の肯定的な回答を得ることができ、学校の方針をよく理解していただいた結果であると考え。 ・地域人材を活用して、防災教育、食育につながる米作り、野菜作り、先輩から学ぶキャリア教育等の学習が充実し、地域への愛着を感じる機会となり、志を高める教育につながった。97%の児童が、学習した内容が自分のためになったと回答しており、学校目標の「学校・家庭・地域の思いを受け継ぐ児童」を育てることができた。 ・教員の積極的なICT活用により、1人1台端末を効果的に活用した授業改善ができてきた。さらに、業務効率化につながるようなICT活用を目指したい。
----------------	---